

GPEC NEWS Vol.2

主催：一般社団法人 日本施設園芸協会

発行元：GPEC NEWS編集室
〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル4階
アテックス(株)内
TEL:03-3503-7611 FAX:03-3503-7620
http://www.gpec.jp

市場の拡充“強い日本の農業”へ向けてGPEC躍動



GPEC2012会場の様子：
高い関心と明確な目的を持った来場者が集まる

新たに完全人工光型植物工場システムを開発した企業から「前回来場したが、来場者が多く、とても状況だった。周りからの評判も良いので、ぜひ出展したい。」と新規出展を検討する声も届いている。生産農家に限らず製造業や不動産業など、工場の敷地・ビル内に空きスペースを持つ企業等に対し、このシステムの特徴を活かしPRをしたいと積極的だ。

周囲の高評価を受け、新規出展へ

「前回は生産者の来場が多く、新規顧客獲得に結びついた。今回はスペースを拡げ、展示物を充実させたい。」「新製品もPRすべく、前回より小間を増やすよう社内で調整している。」「前回出展し、社内での評価がとても高かった。今回も必ず出展し、前回より多くの来場者に対応したい。」

前回出展者の大半が継続出展と増小間を検討

施設園芸・植物工場展2014 (GPEC)への出展申込みが順調だ。前回出展者は継続出展や出展規模の拡大を図る企業が多く、また、植物工場分野へ新規参入を果たしたメーカー等からの問合せも事務局へ多く寄せられている。

前回は上回る勢いで、出展申込みが相次ぐ

新たな技術とシステムが集結し、多彩な情報を発信する



GPEC2012会場の様子：
最新情報を求める来場者であふれていた

注目の最新機器・資材、システムが一堂に

出展予定企業の製品を一部紹介する。まず栽培施設・資材では、低コストタイプのハウス、内張・外張フィルム、防虫ネット、種苗や肥料、土壌改良材などが集結。付帯設備・機器では、自動かん水装置、暖房設備など、施設園芸で必須の製品が一堂に会する。さらに、細霧システムや遠隔監視・モニタリングシステム、生育センサーなど、最適な栽培環境を維持するための最新機器が勢ぞろいする。

そして業界内外の注目を集める完全人工光型植物工場関連では、最新鋭の閉鎖型植物工場システムをはじめ、省エネタイプのLED、病害低減を促すLED光源なども必見だ。また、今回設置する「流通・加工・鮮度保持」特設ゾーンおよび太陽光発電、省エネ・省コスト、農業IT、SAFETYの4つの集中展示ゾーンへの関心も高く、問い合わせが相次いでいる。
(特設ゾーン、集中展示ゾーンについては裏面参照)

自治体・海外企業など多彩な顔ぶれ

「ライバル企業が多く出展している。それだけ出展効果が高いと思われるので弊社もぜひ出展したい。」と、競合他社を強く意識した企業の鼻息が今回特に荒い。

大規模生産者や植物工場事業者を誘致したい自治体も検討しているほか、海外企業も出展に前向きだ。前回の結果を高く評価した韓国企業10数社が共同出展することも決定している。加えて、オランダや中国、イスラエルなど施設園芸分野における先進諸国からの出展も予定され、国際色も一層増す。環境制御技術や水処理技術なども、注目を集めそうだ。



GPEC2012会場の様子：
来場者は出展者との商談や情報収集に努めていた

新システム・技術をプレゼンテーション

ブースでの製品展示に併せ、ホール内のセミナー会場において関心の高い来場者に説明・紹介できる出展者プレゼンテーションも人気だ。過去の利用者から好評のため、今回のGPECでは、前回より開催枠を拡大して募集。すでに国内外の企業から、自社の新システム・技術をアピールしたい、と関心が寄せられている。

来場者がGPECに期待する展示・製品とは？

前回のGPEC来場者から寄せられた、「次回のGPECで見たい製品、期待する展示」に関する声を一部紹介。多種多様な意見が集まった中で、「コスト削減を実現する設備・機器・資材」、「作業を便利にする技術」を見たい、知りたい、という声が多い。

- ・ローコストな栽培施設
- ・再生可能エネルギーを利用した展示
- ・CO₂センサー
- ・温室内環境情報のモニター装置
- ・農機具類
- ・種苗会社の新品種
- ・暑さ対策資材
- ・個人農家向け植物工場の展示 など

非常に高い関心と意欲を持った生産者たちと、より優れた製品・技術を開発・普及するためにも、GPEC2014では出展者と来場者との積極的な意見交換や情報交流が期待される。



事務局連絡先 (アテックス社内)
TEL: 03-3503-7611
FAX: 03-3503-7620

申込期限は2月28日！出展検討は事務局へ連絡を

GPEC2014の出展申込み期限は2月28日(金)。すでに100社を超える企業が出展に向けて、展示内容の検討、予算取りを行っている。

なお、会場のスペースには限りがあるため、期限前であっても申込み受付を締め切る場合がある。出展を希望する場合は、資料請求や問合せなど、急ぎ連絡してほしいと事務局は呼びかけている。

CHECK! 会期までのスケジュール



強い農業の実現を目指して ～篠原会長インタビュー～



(一社) 日本施設園芸協会 会長 篠原 温氏

「強い農業を」と叫ばれ、業界には追い風が吹いていますが、裏を返せば、まだまだ「弱い農業」・「守りの農業」であるということです。農家の高齢化や小規模経営、設備コストの高止まりといった問題がある一方で、生産物の価格が低迷しています。さらに原油価格の高騰や農産物輸入の可能性など、問題が多々あります。ただし、悲観的になる必要もありません。規模の拡大や経営体制の転換など、このチャンスを活かしながら「儲かる農業」へ徐々に切り替えていければいいのです。そして、若い人が夢を持って農業に取り組めるよう、当協会も政府も支援しなければいけないと感じています。

理想の栽培環境を求めて 常に技術は進化している

追いつけ追いつかれ、業界には追い風が吹いていますが、裏を返せば、まだまだ「弱い農業」・「守りの農業」であるということです。農家の高齢化や小規模経営、設備コストの高止まりといった問題がある一方で、生産物の価格が低迷しています。さらに原油価格の高騰や農産物輸入の可能性など、問題が多々あります。ただし、悲観的になる必要もありません。規模の拡大や経営体制の転換など、このチャンスを活かしながら「儲かる農業」へ徐々に切り替えていければいいのです。そして、若い人が夢を持って農業に取り組めるよう、当協会も政府も支援しなければいけないと感じています。

最近では、どのような技術が伸びていますか？
例えば「パッドアンドファン」や「細霧冷房」をはじめ様々な冷房方法が進化しています。これは栽培環境をどのように整えれば植物がよく育つかを、改めて研究しているからです。温度・光・湿度・CO2・風の5要素について、統合的に適切な調節を加える必要がありますが、この数年間で環境制御技術が飛躍的に向上しました。これを、最も有効かつコストパフォーマンスが高い方法で行う研究が進んでいます。

企業は価格低下を、農家は体質の転換を

GPEC2014に期待される技術とは
「身近な将来」と「未来的将来」を区別して見せてほしいと思います。「あと1〜2年で実現できる技術や今すぐ手にできる情報・製品」と「10年後には実現できる技術」を。例えば「環境制御技術」について、現時点では収集したデータを解析・可視化して人がスマホで操作できるようにしました。しかし、生産者は実対応までコンピュータにしてほしいと考えています。ICTは、これからの農業を担う存在なので、進みつつある現状と最終的な理想形を見せたいですね。そして生産者もGPEC会場で刺激を受け、色々と学びとってほしいです。



来場者の様々な課題に応えるための製品が勢ぞろいする

集中展示・特設ゾーンに 生産者ニーズに応える 集中展示・特設ゾーン
今回のGPECでは、生産者が抱える様々な問題に対して、4つの集中展示ゾーンが設けられた。まず、電力や高騰する原油価格への対策として、太陽光発電や省エネ型のヒートポンプ、バイオマスなどの再生可能エネルギー利用技術など、経営コスト削減を目的とした製品・技術が並ぶ『①太陽光発電』と『②省エネ・省コスト』ゾーン。統合環境制御システムなど、生産・流通・経営面において高度な情報技術を駆使して効率化を図る『③農業IT』ゾーン。そして、熱中症や自然災害対策などの機器・資材が集まる『④SAFETY』ゾーン。このほか、園芸農産物を美味しく、安全に消費者に提供するために必要不可欠な流通方法や加工、予冷・保冷技術にスポットをあてた、『流通・加工・鮮度保持』特設ゾーンも設置され、物流システム、包装資材や異物検査装置などを取り扱うメーカーやベンダーも複数社が出展する。生産者のみならず卸・小売店関係者も必見のゾーンになる。

SAFETY
熱中症の危険や 虫・鳥獣等による被害、台風などの自然災害から 栽培環境を守るための 機器・資材・サービス
《出展対象》
自然災害対策（資機材）、熱中症対策グッズ、虫・鳥獣対策、安全手袋、安全靴、安全な農業機具、保障サービス、保険、共済事業 等

農業 IT
生産・流通・経営面で 生産者を強力にサポートする、 情報技術・機器
《出展対象》
農業クラウドサービス、生産管理システム、栽培管理システム、遠隔監視システム、ネットワークカメラ、出荷・流通管理システム・ソフト、気象予測サービス、タブレット等端末機 等

省エネ・省コスト
栽培コストの削減を実現する、 省エネ・省コスト型の 設備機器・技術
《出展対象》
省エネ型ヒートポンプ、バイオマス製品・技術、トリジェネレーション設備、再生可能エネルギー 等

太陽光発電
効果的な利用法について 生産者の関心が高い太陽光発電。 設備機器への新たな 電力供給源として 最先端技術を提案
《出展対象》
太陽光パネル/太陽光モジュール、パワーコンディショナー、施工サービス、マネジメントサービス 等

GPEC2014に関するアンケートにご協力ください！
2月28日(金)までにFAXでご回答いただいた方には、本展の特別招待券を贈呈いたします。(2014年5月頃を予定)
● GPEC への関心はどちらですか？
1. 出展したい
□ 出展予定 () 小間 決定時期 () 月頃
□ 出展検討中 () 小間 決定時期 () 月頃
□ 詳細を知りたい(後日、担当者よりご連絡いたします。)
2. 来場したい
GPEC2014で見た製品や技術について教えてください。
()
●ご記入者
会社名 _____ 部署・役職 _____
氏名 _____ 住所 _____
TEL _____ E-mail _____
FAX 回答先 : 03-3503-7620

GPEC NEWS 広告 掲載企業募集中！
GPEC開催をアナウンスする『GPEC NEWS』に 広告を載せませんか？
生産者や農業関係者が GPEC を知る一歩目のアイテムから、出展情報をアピールしましょう！
発行時期：<vol.3>2014年3月(予定) <vol.4>2014年6月(予定)
広告サイズ：天地90mm×左右140mm
広告カラー：1色
掲載料金：<vol.3>52,500円(税込) <vol.4>54,000円(税込)
送付対象：生産者・関連団体、後援・協賛団体、報道関係者 他
詳しくは事務局にお問合せください。
NEWSはWEBサイトからも閲覧可能
出展に関する資料請求や詳細のお問合せ先
施設園芸・植物工場展(GPEC)事務局
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内
TEL:03-3503-7611 FAX:03-3503-7620
www.gpec.jp E-mail:ofc@gpec.jp